

日銀旭川事務所長のみた
旭川シーン
SCENE ②

前回話題とした人口減少は全国的にも大きな課題です。政府は経済成長の点で人口減少を補うべく、海外からの観光客誘致に目を向け、ビザ発給要件の緩和やLCC就航の拡大など、数々の施策を展開しています。

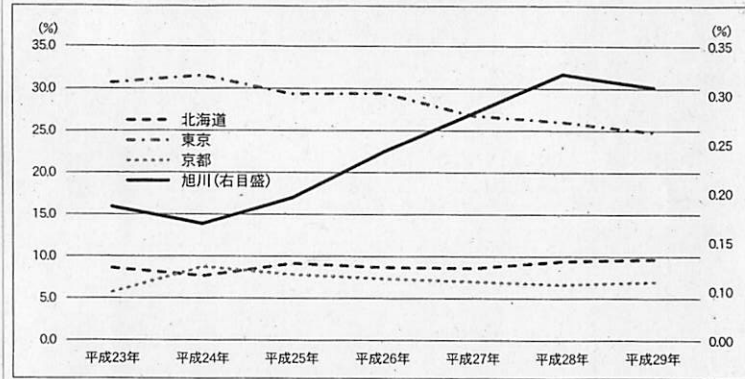
旭川市はこれに、どれくらい追隨できているのでしょうか。外国人宿泊者数(延べ数)の前年比で見ると、旭川市は平成二十五年から二十八年まで全国を上回る伸び率となりました。総宿泊者数(延

インバウンドの取り込み

べ数)に占める外国人の比率も、同二十三年に全

国を下回っていたのが、同二十九年には旭川市が二二・〇%、北海道が二一・七%、全国が一五・六%と、全国を大きく上回りました。この間、全国の外国人観光客の宿泊数(延べ数)に占める旭川市のシェアは、同二十九年で〇・三%となり、同二十三年が〇・一%であったの

グラフ：外国人宿泊者数の全国シェア



表：外国人観光客の延べ宿泊者数シェアと付加価値シェア

地域	宿泊シェア: a (%)	付加価値シェア: b (%)	参考) a/b (倍)
北海道	9.7	3.2	3.0
東北	1.3	5.6	0.2
東京	24.8	21.3	1.2
京都	7.0	1.7	4.1
大阪	14.6	8.3	1.8
四国	1.1	2.4	0.4
九州	15.2	8.6	1.8
旭川	0.3	0.2	1.4

※宿泊者シェアは平成29年、付加価値シェアは同27年

で、関係機関の努力もあって、何と五、六年余りで三倍となったのです。ラフ参照。この「〇・三%」は、どのようか。経済センサスでみた付加

価値額のシェア(同二十七年)表参照でみると、旭川市は〇・二%(全国の市町村ランキングは八十位)です。この対比で見ると、まずまずのシェアに達しているようですが、観光に力を入れていく地域は外国人の宿泊シェアが付加価値額のシェアを大きく上回っています。京都府は付加価値額のシェア一・七

%に対して、外国人宿泊者数は七・〇%と後者は前者の四・一倍です。同様に、大阪府や九州は一・八倍、北海道は三・〇倍です。旭川市は一・四倍なので、外国人観光客誘致の努力は今後も必要のようです。旭川空港では、本年にも国際線ターミナルビルが増設されるので、その効果にも期待したいところ

です。翻って昨今、訪日外国人の関心は、東京や京都といった代表的な都市から、地方の日本の原風景を感じられる地域に向かっていると言われていいます。それは、旭川の映す原風景とはどういったものでしょうか。アイヌの方々の生活や信仰をしのばせる神居古潭などの自然風景や、軍都として生まれ、道内物流の一大拠点であった歴史を示す倉庫群とそこを照らすガス灯などもそうなのでしょう。



都市の中にあつて静けさを感じさせる見本林の散策路、木片が敷き詰められ、木の香りが立ち上る

三浦綾子のような文学者を生んだ、北海道第二位の人口を擁する都府県【中本浩信(なかもと・ひろのぶ)】一九六三年、東京都生まれ。東京大学法学部卒。支店は鹿児島、神戸に勤務。二〇一八年八月から旭川事務所長。趣味は絵画鑑賞。

傷を訪問者に与える風景だと思えます。(毎月第四週に掲載します)